

明光電子

今8月期売上げ23%増

LED照明など販売好調



十川 社長

明光電子の14年8月期売上高が、前年比23%増の62億8千万円となった。

十川正明社長は「エネルギー効率を背景に、海外にプラント展開する国内顧客からの受注を中心に、高速鉄道関連やLED照明などが好調に推移した」と述べ「加えて、社員教育により20代の若手社員が育ってきたことが売上げ増に貢献した」と強調した。

LED照明は、3年前に新規商材の一つとして取り組んだ。サイン(看板)用途に引き合いが出ているという。

一方、社員教育では全社を挙げて行っている。技術者が問題集を作成し、若手社員が回答に取り組んで技術知識などを蓄積。社員個々が改善目標を掲げて挑戦している。「社員の前向きな姿勢が売上げに貢献。アドオンした」と十川社長は喜ぶ。

社会インフラの提案商材としてタクシー自動配車システムを用意。これはタクシー無線のデジタル化に伴い、継続して伸

長している。GPSで位置を検出する端末を介して、近隣のタクシーがスピーディに到着する。

また、地方自治体と各家庭との双方向インターネットとして、広域公共ネットワークを展開。地域エリアの有線放送に代わる新提案として好調に推移しているという。

十川社長は「こうした社会インフラの再構築による売上げをベースに、15年8月期の売上げ67億円を目指す」と語る。

「専門商社の枠にとらわれてはビジネス成長はない。3年先、5年先を見据えたビジネス商材を育む必要がある」として、ルネサスエレクトロニクス製デバイス「スマートアナログIC」の提案を強める予定だ。